

2月・教皇さまの
意向のために
祈りましょう

① 識者による誠意ある研
究

② 宣教のアイデンティ
ティ

③ 重病の人のために祈る

白柳誠一 枢機卿 帰天

日本人4人目の枢機卿
バチカン教皇庁と日本の懸け橋として活躍

前東京大司教のペトロ白柳誠一枢機卿は、昨年12月30日午前6時45分、イエズス会上石神井修道院口ヨラハウスにて、心筋梗塞のため帰天した。享年81歳。「ペトロ岐部司祭」と187殉教者列福式ミサ」での「恐れるな」との説教は今も心に残る。

略歴

1928年6月17日、東京都八王子市に生まれる。翌日、メイラン神父から受洗（八王子教会）。54年12月21日、司祭叙階。57年8月、60年、ローマ留学。教皇庁立ウルバノ大学大学院博士課程（教会法）卒業。66年3月15日、東京大司教区補佐司教に任命される。66年5月8日、司教叙階。69年11月15日、継承権を持つ協働大司教に任命される。70年4月29日、東京大司教着座。83年7月、92年、日本カトリック司教協議会会長。94年10月30日、教皇ヨハネ・パウロ2世により枢機卿に任命される。94年11月26日、枢機卿親任。2000年6月、東京大司教引退。05年4月18日、ヨハネ・パウロ2世教皇逝去に伴う教皇選挙に枢機卿として参加。08年11月24日、長崎にて行われた「ペトロ岐部司祭と187殉教者列福式ミサ」を主司式。説教も務めた。葬儀・告別式は本年1月5日（火）午前11時から、喪主である岡田武夫・東京教区大司教の主司式のもと、東京都文京区・東京カテドラル聖マリア大聖堂で行われた。司祭とはどんな人ですかと尋ねる人には、「主キリストに似る者となるように努力しながら生活している者です。主キリストを通して神さまがわたしたち一人一人をどれほど大切にし、愛してくださっているかを伝えたいと願っている者です」と答えます。教区司祭は福音を宣傳えるために教会に派遣されます。まず宣傳える福音をしっかりと生きるように努力します。そして、派遣される教会の状況の中で働くことになり

信徒の皆さまには、信仰に確信と喜びをもって、生涯主キリストへの信仰を生活の土台に置ける信者に育ってほしいと願っています。

しかし、信仰を育てるのは神さまです。

「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神さまです。」

司祭年 連載企画

「司祭が司祭であるために」⑧

司祭叙階36年

「やっと…今、わかりました」

大山 繁



は、神さまの命を強める秘跡にあずかる習慣をつける、3つ目は神の掟を守る生き方です。

信仰宣言の内容の理解は、堅信の秘跡の準備でなされています。また、ミサのみことばの祭儀の説教で教会の教義が解き明かされます。

聖体の秘跡を大切にし

6・56。

キリスト信者はキリストの掟を守る生活をします。「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である」(ヨハネ15・12)。

神の十戒は、人間である限り誰もが守らなければならない掟です。

毎朝、司祭はミサをささげる1時間前に起きて祈り、聖書を読みます。

みことばについてのミサ中の3分間の話は、話す人にも聞く人にもみことばを黙想する時間を与えます。ミサの30分前に告白部屋に入り、ロザリオ

今年の年賀状で、特別目を引いたものがある。差出人とは15年ほど前に長崎市内の幼稚園で出会った。当時は大学の教授で、日本での児童教育にカトリック教会が与えた影響を調査・研究していた。のちに大学の学長を務めて退官されたのだが、葉書には「洗礼を受けました」という報告が書いてあった▼この先生は研究者であり、カトリック教会が日本の教育界に与えた影響には特別な関心を払っていても、信仰に導かれることはまず無いだろうと思っていた。出会って最初の10年、上五島の調査の同行を鯛ノ浦の父に頼んだり、外海を視察に行く時には太田尾から出向いたりしてかわって来た。けれども直接信仰の話をしたことにはなかった▼賀状を手握つてずつと考えた。わたしは声をかけなかったが、洗礼に導いた神父さまは、声をかけるべきだと判断したのかも知れない。もしかしたら洗礼を授けてくれた神父さまさえも、洗礼を受けたらと言わなかったのに結果的に導かれたのかも知れない▼本来、宣教とは1つなのではないか。つまり「あなたがたは行つて、すべての民をわたしの弟子にしないさい。彼らに父と子と聖霊の名によつて洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい」(マタイ28:19-20)である。教区民すべてが、生き方でも言葉でも、「人をイエスの弟子にする」歩みでありたい。

司祭叙階を前に 素直な心で



ミカエル
中尾 直通

私は五島の三井楽町高崎というところで生まれ、たくさんの人からお祈りや神様のことを教わりながら大きくなりました。お風呂の中で聞く聖書の話や、子守歌代わりのロザリオの祈り、とても長く途中でいつも眠っていました。

シスターたちによるけいこ、教会への長い坂道の途中にあるおじさんおばさんの家。小さな足で坂道を歩く私を見かけては声をかけて励ましてくれたり、たまにお菓子をくれたり。神父様はよく侍者たちを旅行に連れて行ってくれました。私はいつも何かに見とれて立ち止まってしまい、みんなに置いて行かれて迷子になっていたので、要注意児童でした。

幼いころから、司祭への憧れはありました。しかし、「憧れだけじゃ司祭にはなれないよ」という言葉を耳にして以来、自分ではふさわしくないのかもしれないという不安に駆られ、憧れることをあきらめました。自分の気持ちを表現できずに、ぎこちなく生きていました。先のことばかり分らないうちはあまり大きなことは言わない方がいい、という

臆病な計算もあったのだと思います。そんな生き方こそが憧れだけでは乗り越えられない私自身の弱さでした。うそをついては取り繕うばかりで、自分の弱さをさらけ出すことにおびえて殻に閉じこもり、そのくせ理解してもらえないと嘆いては勝手に不信感を募らせていく。もう無理だ、ついでいけない、と何度もあきらめかけました。

シンプルに生きる人たちとの出会いがありました。一緒に泣いてくださったゆるしの秘跡がありました。祈る人たちの姿がありました。私の心を揺さぶり続ける声がありました。

素直で正直に生きるよう励まされました。振り返れば、秘跡に生かされ、本当に多くの方々に支えられて歩んできた道のりでした。出会いこそが前進と成長の糧でした。これまで支えてくださった方々には本当に感謝しております、ありがとうございます。この気持ちを大切に、これからも主が招いてくださったこの道を素直な心で丁寧に歩んでいきたいと思えます。どうぞよろしくお願いします。

略歴 1980年6月3日五島市三井楽町生まれ。93年4月、長崎カトリック神学院・長崎南山中学校入学。96年4月、長崎南山高等学校入学。99年4月、長崎コレジオ・長崎大学入学。03年4月、福岡サン・スルピス大神学院(現日本カトリック神学院)入学。09年2月、助祭叙階。三井楽教会出身。

長崎巡礼センター ガイド養成講座 (上級編) 始まる

長崎県観光連盟の委託を受け長崎巡礼センターが開催する「ながさき巡礼」ガイドのマスター養成講座が1月9日、日本26聖人記念館で始まった。今回の講座はガイド養成講座(基礎編)を受けた

人が対象で、県内各地から15人が参加。3月14日まで計10回開催される。講師は日本26聖人記念館のデ・ルカ・レンゾ師、長崎純心大学の山内清海師や片岡瑠美子修道女らが務める。「キリスト教概論」や「教会史」など、キリスト教についての理解を深め、現場での案内に役立てることを目指す。

合同祈禱礼拝に参加

長崎キリスト教協議会(会長・日本基督教団長崎古町教会牧師)主催の「新年合同祈禱礼拝」が1月2日、日本聖公会長崎聖三一教会(長崎市大浦町)で開かれ、カトリック教会からも野上千年、大水恵一両神父と信徒ら合わせて約15人が参加、ともに祈った。



この後、日本キリスト教長崎伝道所の崔炳一牧師が「キリストにある希望を求めて」というテーマで説教を行った。

センターカフェ 改装オープン!

カトリックセンターのカフェ「サントス通り」が1月12日、改装オープンした。営業時間11時〜16時、毎週月曜が休業日。店内は約25席、会議ができる別室(約40人)もある。団体の場合、要予約。TEL 095-846-4246(宿泊部と同じ)。

教区評議会役員研修会

1月16、17の両日、教区評議会役員研修会がカトリックセンターと大司教館で行われた。テーマは「みんなで担う『信徒奉仕職』」信徒の奉仕職を知るために。各小教区からの代表者

第3回江袋教会 復旧委員会について

2007年2月の火災で焼損し、復旧工事が進められてきた江袋教会がいよいよ本年3月に完成する見通しになり、江袋教会の信徒たちはその完成を待ちわびている。



昨年、12月14日に大司教館で開かれた「第3回江袋教会復旧委員会(写真)」で高見三明大司教から、全国から善意の募金が寄せられ、復旧委員会の専門家の力添えで、完成できる見通しが立つたことに感謝の意が述べられた。

査と指導を受けて、表面が焦げた太い柱を削りその部材を使用し、また一部の部材の表面を合成樹脂で強化するなど、できるかぎり元の部材を生かす方向で工事が進められてきている。現在は、コウモリ天井などの工事が進み、工事の8割が完了していることが報告された。総工費は約2億3千万円になる予定。そのうちの1億9千万円が県(50%)と新上五島町(25%)の補助を受けている。

また、仲知小教区の信徒が待ちわびる祝福式と落成ミサが5月9日大司教司式で執り行われることが正式に決まった。

福江小教区創設 100周年に向けて

12月13日(日)午前9時半から、福江教会において「デ・ルカ・レンゾ師(イエズス会)を招き初の記念講演会が開催された。これは4年後に迎える福江小教区創設100周年に向けての記念事業の一環として行われたもので、今回はザビエル渡来から始まり、五島へカトリックがもたらされ、その後の迫害に至る五島キリシタンの歴史の概要が主な内容だった。レンゾ師(写真)は「歴史の中の出来事を通して神が働いていること



を感じ取ってほしい。アルメイダもレンゾも自分の持っているものすべてを使い宣教した。現代はインターネットなどの方法もある。霊的な目を養い、よりキリスト教的な生き方こそ大切であり、昔の歴史は現代の話である」と結んだ。

福江教会では100周年に向け、①信徒会館・司祭館建設事業②100周年記念誌編纂事業を計画し、それぞれの委員会も発足しすでに動き始めている。今回の講演会は記念誌編纂の準備もあり、今後も機会をとらえて行っていく予定である。

なが さき せき ちょう

長崎石彫

ヨゼフ 岩永 博明

☎(095) 862-2469

長崎市梁川町 6-17 岩永ビル

石 碑
墓地工事
写真彫刻
墓地分譲

タンスの中身は入れたまま責任ある安全運送!!
(見積り無料・荷造り発送も致します)

24時間営業・年中無休
受付時間 7:00~22:00

水 浦 運 送

シモン 水 浦 幹 雄

長 崎 市 上 野 町 12-3

TEL(095) 847-7151

844-1420

貨物保険有り
・一般引越
・小荷物
・遠距離
・学生引越
・荒ゴミ捨て
・ピアノ運搬

セイントホール

フラワーアレンジ
グリーングラス
フラワースタンド生花

とさのもり

主の平和 安らかな旅立ちのお手伝い

平戸地区・北松一円の信徒会館葬・教会葬・自宅葬にも対応。

また宿泊施設を完備した当館での斎場葬もご利用下さい。
※フラワースタンドや花祭壇など慶弔用の生花も承ります。

『とさのもり友の会』入会募集中

葬儀の事、事前相談など お気軽にお電話下さい。

刻の杜斎場 0950 26-0005

平戸市平町小手田免990-35 瀬戸の寄り道前

代表 ペトロ 小 出 博 史

は、2日間にわたって「信徒の奉仕職(共通祭司職)」「任命された信徒の奉仕職」教区評議会が今年度取り組んでいることについての研修を受け、グループ討議を行い、分かち合った。



2日目の最後に高見大司教から、司祭と信徒のかかわりについて講話があり、感謝のミサをもって終了、解散した。

教区家庭福音化担当部主催 問合先・(担当部員) 里川 TEL 095(849)2645

●匿名様 右の方からご寄付を

●田口ノ工様(黒崎)

●山野貞男様(山野)

●故マリア山野フク様

●柳迫 進様(深堀)

●故マリア林田 愛様

賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

長崎カトリック神学院

●中村倫明神父様(植松)

●故洗礼者ヨハネ

●川内和則神父様(俵町)

●故セシリア

●川内マリイ様

●山本 寛様(城山)

●故パウロ山本保男様

●匿名様(2件)

右の方々から神学生養成のために、香典返しに代えてご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げますとともに故人のごいふ福を心からお祈り申し上げます。

香典返し
お礼とご報告

長崎カトリック神学院

●平野フジエ様(黒崎)

●故トマス平野幸雄様

●平 キミ様(神ノ島)

●故セバスチアノ

●平 定男様

●山野貞男様(山野)

●故マリア山野フク様

●柳迫 進様(深堀)

●故マリア林田 愛様



第16回 司教のための社会問題研修会

今年度の司教のための社会問題研修会は、公害の原点である「足尾銅山鉱毒事件」と田中正造についての現地学習であった。司教8人と社会司教委員会スタッフら計17人が参加。1月14日、館林教会(群馬)で、布川了氏



パウロ・グリーン神父



千葉茂樹監督

一豪日に架ける 愛の鉄道

映画と出版
記念講演

長崎市のメルカチきまちで1月11日、映画「一豪日に架けるー愛の鉄道」と「サムライの如くートニ・グリーン物語」(パウロ・グリーン神父著)出版記念講演の集いが開かれた。主催は長崎県立西高等学校同窓会有志市民グループ地球家族の会ほか、カトリック中央協議会広報部ほか後援。

昨年5月、教区評議会議長に就く。司祭年開年、パウロ年開年、平和祈願祭、浦上教会での追悼ミサ、ながさき巡礼月間。相次ぐ教区行事が駆け抜け、早9カ月が過ぎる。「評議会」は、かつての信徒使徒職評議会が発展的に解消され、司祭、修



道者、信徒が同じ評議会場で宣教に向かい、拡大・充実した組織をと創設されたもの。小教区評議会が2005年にスタート。翌06年に地区評

議長 松尾 勝さん



で役員を。07、08年度の教区評議会に副議長として「評議会」の移り変わりを経験しながら奉仕職に徹してきた。人は「信徒を代表する議長職は、教

区発展のため取り組む松尾さんのひたむきな姿勢がうかがえる。188殉教者列福式1周年を記念するながさき

長年の公務員(長崎大学)生活は昨年6月末の退職でひとくぎり。職場のストレス解消も兼ね親しんできた「ピンポン」では精道三川台高校卓球部を指導。ボーイスカウトのリーダーを務めたことも。ドライブも趣味。何事も控えめながら幅広い行動の場を持つ。母と妻、次男の4人暮らし。「孫(長男の子ども)と遊ぶのが楽しみ」と目を細める。韓国の太田教会で幼児洗礼。64歳



長与教会学校 福祉協へ寄付

ち「献金」を主任司祭の助言もあり、地域の方々とのつながりを持つために長与町社会福祉協議会に寄付した。

お告げのマリア 修道士会 誓願式

1月11日、長崎市小江原の本部聖堂において、多数の参列者が見守る中、

高見大司教主司式により初誓願・終生誓願式が行われた。
(初誓願宣立者) マリア 江口 しの(桐)

マリア 溝口 綾香(大崎) フランシスカ 岩崎香須美(神ノ島) マリア 山崎 裕子(三井楽)

マリア 黒川 杏菜(大崎) (終生誓願宣立者) カタリナ 浦川のぞみ(中町)

戦後65 からの種。パン種

生まれて初めて行った日の長崎 学生と共に「灰の水曜日」を長崎で

薄田 昇(すすきだ のぼる)

1 学生と共に 1970年2月11日、ちようどの日は灰の水曜日に当たるので「灰の水曜日」を長崎で。このキヤッチ・フレーズのもとに学生と共に長崎巡礼を計画した。ちようどのころは日本全国で学生紛争が激しく、特に東京は毎日のジグザグデモ、シブプレヒコールなどで反体制を叫んでどの大学も荒れに荒れていた。パリケード封鎖、大学当局による封鎖、そのような



1929年仙台生まれ。イエズス会司祭。99年から出雲教会主任。「愛の歌・平和の歌 永井隆の生涯」(サンパウロ)で日本の青少年のために意識。

2 乙女峠の殉教者 翌日昼ごろ山口に着き、SLに乗ってさらに津和野駅、あつきのときはすべてがSLであった。津和野に着いて浦上の信徒が歩いた道を歩み、ピリオン神父が建てた殉教者の碑

3 灰の水曜日を長崎で 長崎で一晩を過ごして朝早く起き浦上の天主堂に行った。ここで学生たちはまた沈黙をしてしまった。老若男女、素朴

な信徒、白いベールをつけてロザリオを手に「ああマリアさま」と声に出している老婦人もいた。その後、片岡弥吉先生の指導で26聖人殉教者の道を歩いた。「この道を26聖人が歩き、浦上一村総流罪の信徒が歩き、そして長崎原爆の投下の子ながら歩いたのです。同じ道です。この道です。歴史を結ぶ一本の道、それは人の世の道であり、キリストの道である。『平和を』キリストの平和以外に平和は来ない。争いによる平和はない。お互いにゆるし、祈らなければ平和は来ない。片岡先生のことばにみんなは深くうなずいた。帰ってすぐ洗礼を決めた学生もいる。



高校生クリスマス会 下五島地区(福江)

「クリスマス募金」 一部を長崎市に寄付

長与教会学校 福祉協へ寄付

宅地(約330平方メートル)を浦上小教区に寄進、感謝状が贈られている。同小教区は毎週金曜日、約50人が十字架山の巡礼を行っているが、お祈りの後、休憩所などに利用している。



川内マリイさん (川内和則師実母)

セシリア 昨年12月15日、聖フランシスコ病院にて帰天。83歳。長崎市外海町出身。8カ月にわたる闘病生活の間、多くの方々の励ましとお見舞いを受けた。葬儀ミサ・告別式は16日、浦上教会で息子

司祭と多くの司祭の司式で行われた。10年前、夫数義さんを亡くしてから同市辻町の十字架山(巡礼地)に隣接の住居を1人で守り続けてきた。川内さんはこの住居・



澤近満智子修道女 (長崎純心聖母会)

ジェノヴェーファ 12月21日、聖フランシスコ病院にて急性呼吸不全のため帰天。76歳。長崎市伊王島町出身。56年入会、61年初誓願、70年終生誓願。修練院入会後から体調を崩し、養生しながらの奉獻生活。

初誓願後は鹿児島修道院に派遣され、学校の事務職、その後は保育所、幼稚園、修道院で体調を整えながらの奉仕、近年は療養生活が主になっていた。人とかかわりを大切に



熊谷三郎さん (熊谷裕司師実父)

ペトロ 1月3日、長崎市長崎記念病院にて心筋梗塞のため帰天。77歳。愛知県名古屋生まれ、同市にて受洗。生計を立てるために長崎、博多、名古屋の各地で職を転々とし、両親の

故郷である長崎に戻る。その後長崎にて結婚、二男二女に恵まれた。教区司祭・熊谷裕司神父は次男にあたる。寡黙な父親だったが、独り身の晩年は他人とかかわりを喜びとし、教会の動向や時

事問題などにも大きな関心を寄せていた。葬儀ミサ・告別式は、高見大司教主司により、多数の司祭団・信徒の参列のもと、4日、所属教会である深堀教会にてしめやかに行われた。

平和の使者被爆マリア像



被爆マリア像がこの4月から5月にかけて欧州への初の平和巡礼の旅に出る。日程は4月26日、スペインの内戦で無差別爆撃を受けた「ゲルニカ」で催される空爆犠牲者のための追悼祭に、浦上の被爆マリア像が物言わぬ「証言者」として参列する。前日の25日は平和博物館、マドリッドではピカソが描いた「ゲルニカ」を鑑賞、ガウディ設計の「聖家族」教会なども訪問の予定。巡礼団は自ら被爆者でもある高見大司教を団長に、被爆マリア像を安置の浦上教会主任小島栄神父ほか、長崎証言の会廣瀬方人氏、音楽家らが参加する。

参考

川添 猛師著書 「春夢去来」 「ふろしき賛歌」 小崎登明修道士著書 「信仰の出会いの旅」

像、寄せ木細工の木彫 一時、純心短大に保管

戦前、浦上教会に無原罪の聖母像、スペイン画家ムリリョ(1617-1682)の聖面を寄せ木細工の木彫りにした高さ約2尺の像が置かれていたが、原爆で焼失したものと見られていた。ところが、この聖母像の頭部分、昭和の後半に

純心短期大学(当時)の片岡千鶴子学長を通して浦上教会に戻ってきた。被爆直後に外地から復員した信者の兵士が教会の瓦れきの中から見つけ、昭和53年頃、学長の父、昭和33年頃、学長の父、片岡弥吉教授に教会に返すよう依頼を受けていたが、浦上教会資料館の開



野口嘉右衛門神父と像

設が、同教授の死で中断され、短大図書館に保管されていた。その後、信徒会館に展示室を作ることを知った学長が教会を訪ね、返している。

第1号撮影者 小崎登明修道士

被爆マリア像の第1号写真撮影者は、聖母の騎士修道院の小崎登明修道士と聞き、さっそく訪ね

野口神父、像を掲げ 日々「平和」を祈る

野口神父、「修道院の

自分の仕事場に掲げて日々、平和を祈っている。被爆30年目を前に、浦上教会へお返ししたいと決意する。故郷・浦上へ久しぶりに戻った神父は「被爆マリア像」との別れにぜひ記念写真をと、かつて取材に北海道のトラピスト修道院を訪れたことのある小崎修道士にお願いする。

被爆前の「マリア像」 少年の心に深い印象

野口神父は、どのような像を発見し、浦上天主堂の瓦れきの中から発見した。頬は黒く焼け焦げ、目はくぼみ、平和を訴える、その姿はあまりにも痛ましく北海道のトラピスト修道院へ持ち帰った。

北海道行きを前に 聖堂で別れの祈り

修道院へ入会するとき、像の前にひざまずいて、「聖母マリア様、私は遠い北海道のトラピスト修道院へ参ります。もうこの聖堂でマリア様の御前でお祈りすることは二度とないと思います。しかし、どこに居ても私を守り、御助けください」とお別れのお祈りをしたことを覚えておられます。

石の上に腰掛けて聖母に向かつて「私はこれから北海道へ戻ります。十字架も、御身のあの美しい御像の姿も全く見当たりません。他に何でも結構ですからお恵みください」と祈りました。しばらく黙祷して見ました。目を開いて目前を見ますと、真つ黒に焼け焦げた聖母の御顔が、悲しい、なつかしい目つきで私を眺めておられます。私は「あ、マリア様、バンザイ」と叫びました。

野口神父は、仙台の浦上教会に、被爆マリア像を返す。片岡弥吉教授に託す。野口神父は、仙台の浦上教会に、被爆マリア像を返す。片岡弥吉教授に託す。

川司教が修道院訪問の折、お目にかけて事情を説明している。「あなた、最上の宝物を見つけたね。1975年頃だったと、口元は壊れないように針金でしばられた、生々しい」と小崎修道士は当時の模様をこう結ぶ。

野口神父は2004年8月13日帰天。92歳。(深堀 桂)

針金で口をしばられた 悲しい「被爆マリア像」



「平和な世界」09制作 長崎山里小学校区児童 保育やまぎとクラブ 米国フロリダ州ハーツ フィールド小学校

純心高生、川柳で大賞

福岡大学主催(文化庁など後援)の全国高校生川柳コンクールで純心高1年山口絵莉菜さんが大賞を受賞したほか6人が入賞。「夏休み ボルトのように、去っていく」注/ボルト=陸上短距離の世界記録保持者。応募作品1万5450句。

★母の遺言 新刊良書

桜井彦孝著。熱心な仏教信徒家庭の末つ子が司祭を志し、家を出るとき母が言った言葉「本ものになりなさい」。本ものになるとは? と日々歩むなかで記したエッセー。発行 女子パウロ会 定価 1260円

みことばにふれて 60 早岐教会学校スタッフ



ただ本当にどの子どもにも言えるのは、頭と心のやわらかさ! いつのまにか大人が無くしてし

先日も授業の中で、「教会の中で、なんでだろう? とか、変だな? とか、不思議に思ったことはな

い?」と聞いても、教会の中で育つ子どもたちは、すべてそのまま、あるがまま受け入れていました。わたし「神さまって本当にいると思う?」と質問するとはあ?と全員にかなりあきれた顔をされてしまいました。「この先生は何を言い出すんだ」とも言いたげな顔でした。

この子どもたちの心はイエスさまのたとえ話の「種まき」に出てくる「肥えた土の良い土地」なのだと思えてなりません。やわらかく日当たりも良く、栄養も十分。種をま

き、大切に育てていかなくてはならないと思います。(平松信子)

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社 西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 寛己 本社 〒857-1166 佐世保市本風町1468番地 TEL (0956) 31-8268

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網

エテルナ・ワコー(株)

代表取締役 ミカエル 溝口 美義 〒858-0926 佐世保市大湊町586 TEL (0956) 47-4380



主の平安 カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二 長崎市辻町7-18 TEL (095) 844-4011 24時間営業 FAX (095) 843-9896

墓地改修・新設 個人のご相談も承ります

実績 城山教会墓地 飽の浦教会墓地

浜串教会墓地 青砂ヶ浦教会墓地 他 多数

(有)長崎大理石 社長 ヨハネ 濱本直行

本社 長崎市つづしが丘5-1-15 (TEL)095-839-0374 加工工場 諫早中核工業団地